

南区地域福祉保健計画関連 平成29年度 南区社会福祉協議会 主要取組項目

重点 目標1	<b>日ごろから声を掛け合い、つながり・支えあいの関係をつくろう</b>	重点
< 地区社協支援 > (市社協補助金・共同募金) 5,739千円【6,500千円】		
(5年後の将来像) 地域の中で見守りしあえる関係ができ、孤立する地域住民が少なくなっている。		
具 体 的 取 組	◆ 認知症の理解を促進するため、地域や学校等における認知症理解講座(認知症サポーター養成講座等)の開催を地域や関係機関と共に支援します。	
	◆ 認知症理解講座(認知症サポーター養成講座等)の受講者を地域の見守り活動につなげられるように支援します。	
	◆ 高齢者や障害者の孤立防止のため、地域ケアプラザや地域活動ホーム等の関係機関と連携しながら、地域の見守り体制づくりを支援します。	○
	◆ 「地域支えあいネットワーク」の展開及び活性化を支援します。	
< 身近な地域のつながり・支えあい活動の推進 >		
(5年後の将来像) 支援が必要な人を地域で見守り、孤立する事がない体制が、どこの地域でもできている。		
具 体 的 取 組	◆ 区民一人ひとりが抱える生活課題の解決に向けて地域住民や関係機関と共に取り組みます。	
	◆ 様々な生活課題を抱える人や支援が必要な人が地域から孤立しない仕組みづくりを地域住民や関係機関と共に進めます。	
< ボランティアセンターによる活動支援 > (市社協補助金・指定管理料) 2,440千円【2,440千円】		
(5年後の将来像) 身近な地域で活動するボランティアが増え、ボランティアのつながりや地域の支えあいの関係もできている。		
具 体 的 取 組	◆ ボランティアセンターと各地域ケアプラザとの共催によるボランティア講座を実施し、気軽に参加できる地域ごとの「ちょこっとボランティア」活動を広げます。	○
	◆ ニーズに応えられるようボランティア情報の共有を各地域ケアプラザとの間で進めます。	
	◆ ボランティアセンター、地域ケアプラザ、ボランティア連絡会が協働して、多様化するニーズに対応できる仕組みづくりに取り組みます。	
	◆ ボランティアが集うイベント(「ボランタリーフェスタ」等)に多くの団体が参加するよう働きかけ、ネットワークを広げます。	
	◆ ボランティア団体のつながりを深め、幅広いニーズに応えられるよう交流会の開催やボランティア連絡会への加入を働きかけます。	
< 福祉教育啓発支援 > (市社協補助金・会費等) 185千円【102千円】		
(5年後の将来像) 学校での福祉教育についてボランティアと学校との意見交換が進んでいる。		
具 体 的 取 組	◆ 学校での福祉教育について、協力者であるボランティアの意見も取り入れた「福祉教育」プログラムを提案します。	
	◆ 地域ケアプラザや地区社協等とも連携したプログラムを検討します。	
< 災害救援ボランティアネットワーク活動の強化 >		
(5年後の将来像) ボランティアや関係機関同士、顔の見える関係を築いている。		
具 体 的 取 組	◆ 定例会や定期的なシミュレーション訓練を通じて、災害ボランティア同士のつながりが深まるよう支援します。	
	◆ 災害救援ボランティアネットワークと関係機関が相互の役割を理解し合い、円滑な関係を築いていけるよう支援します。	

<p>〈 障害児者支援 〉</p> <p style="text-align: right;">(協賛金・会費等) 135千円【140千円】</p>	
<p>(5年後の将来像) 商店や地域住民等と障害児者やその家族が、互いに理解を深め、交流が盛んに行われている。</p>	
<p>具 体 的 取 組</p>	<p>◆ 地区社協や学校、企業等と協力し、「おみせサンタ」事業等の障害児者と地域がつながるイベントを実施します。</p>
	<p>◆ 親の会や障害児者団体が行う疑似体験や「セーフティネットプロジェクト横浜」の出前講座等の取り組みを支援し、障害理解の啓発活動に取り組みます。</p>
<p>〈 障害児者の移動支援 〉 【移動情報センター】</p> <p style="text-align: right;">(横浜市受託金・市社協補助金・会費等) 9,045千円 【9,860千円】</p>	
<p>(5年後の将来像) 付き添い活動を通して、地域の中で障害児者とその家族の見守り、支えあいの関係が築けている。</p>	
<p>取 組 具 体 的</p>	<p>◆ 障害児者への理解を促進するため、地域で障害理解講座を実施するとともに、付き添いボランティア活動につなぐ支援をします。</p>
<p>〈 福祉保健活動拠点による支援 〉</p> <p style="text-align: right;">(指定管理料・利用料) 14,530千円【14,711千円】</p>	
<p>(5年後の将来像) 行事や講座等を通じて周辺の施設や地域住民との交流が深まっている。</p>	
<p>具 体 的 取 組</p>	<p>◆ 地域ケアプラザやみなみ市民活動・多文化共生ラウンジ等と共に、ボランティア活動の情報共有や情報発信を進めます。</p>
	<p>◆ 「うらふね納涼祭」や「ボランタリーフェスタ」等の行事を通して施設と地域住民の交流を促進します。</p>
<p>〈 日常生活自立支援 〉 【あんしんセンター】</p> <p style="text-align: right;">(市社協受託金・利用料) 1,213千円【1,299千円】</p>	
<p>(5年後の将来像) 権利擁護事業(あんしんセンター)や成年後見制度についての理解が進み、高齢者や障害者が自分の力を生かしながら、地域で安心した生活を送ることができている。 市民後見人による地域での活動が進み、認知症や障害等があっても、地域で安心した生活を続けることができている。</p>	
<p>具 体 的 取 組</p>	<p>◆ 権利擁護事業(あんしんセンター)の利用を促進するとともに、講座などを通じて、地域に向けて成年後見制度を普及啓発します。</p>
	<p>◆ 市民後見人への助言、活動支援を行います。</p>
	<p>◆ 地域に向けた市民後見人の普及啓発、情報提供を行います。</p>
<p>〈 生活困窮者への支援 〉</p>	
<p>(5年後の将来像) 生活困窮者が様々な支援を受ける体制が出来ており、自立へつながっている。</p>	
<p>具 体 的 取 組</p>	<p>◆ 区が実施する定例支援調整会議に参画し、生活福祉資金貸付事業や総合相談などを通して、生活困窮者を支援します。</p>
	<p>◆ 地域のネットワークを生かして支援が必要な人たちを把握し、制度につながるよう関係機関と調整を進めます。</p>
	<p>◆ 生活状況により、関係機関と連携し、食の確保やこどもの居場所づくりなどを通じた生活の支援に取り組みます。</p>

〈 共同募金活動 〉		
(5年後の将来像) 募金の仕組みや必要性が多く世代に理解され、募金への協力者が増えている。		
具体的取組	◆ 募金の仕組みや使い途を分かりやすく丁寧に説明するなど周知活動を強化し、寄付や募金活動が定着する地域づくりを進めます。	
	◆ 学校関係などに支援を必要としている人の声や感謝の声を届け、思いやりの心を育みます。	
〈 区内福祉施設団体の活動支援 〉 【福祉施設団体分科会】 400千円【200千円】		
(5年後の将来像) 施設利用者及び関係者と地域住民が集える場や交流の機会がある。		
具体的取組	◆ 分科会で地域の課題についての意見を出し合い、地域課題の解決を支援します。	○
	◆ 施設の行事を地域住民へ周知し、日頃からの交流を図ります。	

重点目標2	誰もが活躍できる機会と身近な参加の場をつくろう	重点
〈 地区社協支援 〉 再掲（市社協補助金・共同募金）5,739千円【6,500千円】		
(5年後の将来像) 世代を問わず、地域住民が活躍できる場が身近な所に設けられている。		
具体的取組	◆ 地域住民が地域活動に参加するきっかけづくりを地区社協と共に検討し、支援します。	○
	◆ 子育てや高齢者サロン等の開設や運営を支援し、地域の様々な資源を活用しながら、新たな人材を確保します。	
〈 ボランティアセンターによる活動支援 〉 再掲（市社協補助金・指定管理料） 2,440千円【2,440千円】		
(5年後の将来像) サロンや支えあい活動など身近な場所で参加する機会や活躍するボランティアが増えている。 男性や若い世代、特技をもつ地域住民の多くが地域活動に参加している。		
具体的取組	◆ 地域ケアプラザやみなみ市民活動・多文化共生ラウンジなどと連携し、ボランティア活動の場を提供していきます。	
	◆ 地域福祉団体と協働して、新たな担い手を育成するため、アクティブシニアなどを対象にボランティア講座や活動紹介を行い、ボランティア活動への参加を促します。	○
	◆ 地域ケアプラザやボランティアグループなどと連携し、趣味や生涯活動を通じたボランティア活動への参加を促していきます。	
	◆ 男性ボランティアの活躍できる場をつくります。	
	◆ ボランティアグループの運営や活動上の課題について、ボランティア連絡会と協働して、解決に向けた支援に取り組めます。	
〈 福祉教育啓発支援 〉 再掲（市社協補助金・会費等）185千円【102千円】		
(5年後の将来像) 学校での福祉教育をきっかけにした学生の福祉活動が地域で展開されている。 地域住民や企業が連携して福祉活動が展開されている。		
具体的取組	◆ 「福祉教育」を通じて学校と地域の活動をつなぐ仕組みづくりに取り組みます。	
	◆ 福祉教育の協力者として地域ケアプラザや地区社協等との連携を検討します。	
	◆ 地域や企業を対象に、福祉に関する啓発活動を行います。	

〈 災害救援ボランティアネットワーク活動の支援 〉		
(5年後の将来像) 災害救援ボランティアネットワークの活動についての理解が広がっている。		
取組	◆ 「災害時に備え、日頃から考える」視点を広げるために災害救援ボランティアネットワークと共に講座等を企画します。	
〈 福祉保健活動拠点による支援 〉 再掲（指定管理料・利用料）14,530千円【14,711千円】		
(5年後の将来像) 福祉保健活動拠点（トモニー）の認知度が向上し、地域の集いの場として活用されている。		
具体的取組	◆ 地域住民が地域活動に参加するきっかけづくりを進めます。またイベント等を通じて、拠点の周知に努めます。	
	◆ 地域ケアプラザやみなみ市民活動・多文化共生ラウンジなど地域(福祉)活動支援機関と連携してボランティア活動の場を提供します。	
〈 共同募金活動 〉		
(5年後の将来像) 共同募金や街頭募金運動が広く知れ渡り、気軽に募金運動に参加できている。		
具体的取組	◆ 学校や企業に出張し、共同募金の説明会を開催するなどして共同募金への理解を深めます。	
	◆ より多くの団体が募金運動に関われるよう街頭募金運動への参加を広く呼びかけます。	
〈 区内福祉施設団体の活動支援 〉 【福祉施設団体分科会】再掲（会費等）400千円【200千円】		
(5年後の将来像) 施設が地域住民の気軽に立ち寄れる場となっている。		
具体的取組	◆ 施設の開放やボランティア活動などを通じて地域住民との交流を図ります。	
	◆ 施設の特性を生かし、地域住民向けの講座や学習会等を開催します。	
〈 トモニー助成金交付による福祉活動支援 〉 （市社協補助金・共同募金・善意銀行）12,600千円【12,120千円】		
(5年後の将来像) 世代を問わず、地域住民が活躍できる場や参加できる場ができています。		
取組	◆ 地域で活躍するボランティアグループやサロン等に助成することで活動を支援します。	

重点目標3	日常の情報共有を進め、災害時にも安心できる備えをしよう	重点
〈 地区社協支援 〉 再掲（市社協補助金・共同募金）5,739千円【6,500千円】		
(5年後の将来像) 地域住民に必要な最新情報を地区社協から発信し、多くの地域住民に届けられる体制ができています。 多くの地域防災拠点訓練に障害者等要援護者が参加し、有事に生かせる情報収集が進められている。		
具体的取組	◆ 地区担当職員が編集会議に参加するなど、地区社協の広報紙づくりを支援します。	
	◆ 障害者等要援護者への理解が深まるように地区社協向けの研修を障害児者団体と共に実施します。	

< ボランティアセンターによる活動支援 > <b>再掲</b> （市社協補助金・指定管理料） 2,440千円【2,440千円】		
(5年後の将来像) 広報紙だけでなく、イベントや講座など様々な形で情報が発信され、必要な情報が共有されている。 災害時に要援護者をみんなで支える仕組みができています。		
具 体 的 取 組	◆ 広報紙「社協みなみ」やボラセンだより「ボラぴ」等の活用及びイベント等を通じて区民に必要な情報の提供をするなど、情報共有を図ります。	
	◆ 大規模災害時に活動する災害救援ボランティアネットワークの体制強化を図るため、災害救援ボランティアネットワークの周知と会員増に取り組みます。	
	◆ 災害時にボランティアのネットワークが生かせるよう、市災害ボランティアネットワーク会議等に参加し、情報収集やネットワークの強化に取り組みます。	
	◆ 災害ボランティアセンターの機能強化を図るため、区役所や地域防災拠点との連携を進めます。	
	◆ 災害ボランティアセンターのシミュレーション訓練の実施を通じて、ボランティアの技術向上と区民の防災意識向上に取り組みます。	
< 災害救援ボランティアネットワーク活動の支援 >		
(5年後の将来像) 災害救援ボランティアネットワークの活動が周知されている。		
具 体 的 取 組	◆ 災害ボランティアセンターのシミュレーション訓練実施を支援します。	
	◆ 災害救援ボランティアネットワークのボランティアメンバーとともに、災害救援ボランティアネットワークの活動周知と会員の拡大に取り組みます。	○
< 障害児者支援 >		
(5年後の将来像) 区内の多くの地域防災拠点訓練で障害理解を深める取組を障害児者団体等と実施している。 コミュニケーションボード、「配慮が必要な人」と「支援ができる人」とをつなぐ黄色と緑色のバンダナ等の取組が地域住民に浸透している。		
具 体 的 取 組	◆ 災害時に障害児者が地域防災拠点で安心して避難所生活が送れるように避難スペースづくり体験や障害理解講座等を行い、障害児者団体や地域住民と情報を共有します。また、取り組みが区内に広がるよう進めます。	
< 福祉保健活動拠点による支援 > <b>再掲</b> （指定管理料・利用料） 14,530千円【14,711千円】		
(5年後の将来像) 定期的に防災に関する講座や学習会を行い、災害時に連携できる体制が整っている。		
具 体 的 取 組	◆ 防災に関する学習会等を通して周辺の施設や地域住民との交流を図ることで、防災意識を高めます。	
	◆ 高齢者や障害者、外国人等への理解を促進するための講座を検討します。また、周辺の学校と連携して、外国人等に対する「防災フェスタ」等のイベントを実施します。	
< 区内福祉施設団体の活動支援 > 【福祉施設団体分科会】 <b>再掲</b> （会費等） 400千円【200千円】		
(5年後の将来像) 災害時に施設と地域住民が相互に支えあえる関係ができています。		
具 体 的 取 組	◆ 分科会のネットワークを生かして各施設が役割分担し、災害時に連携できる体制を整えます。	
	◆ 福祉施設等と連携して、障害者等要援護者の理解が深められる取り組みを実施します。	
	◆ 災害時の駆けつけ・受け入れ体制を万全なものにするため、分科会のつながりを活かして就職説明会を実施し、職員の充足を図ります。	

